

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会や申し送りなどで理念を共有し、職員も環境だということを意識しあいケアの方向性を確認しあっている。	崇高な法人の理念と共に、「良い外部及び内部の環境が整っていること」、「尊厳をもって接すれば、重い認知症の人たちもケアすることが可能だという自覚をもつこと」、「ケアに対する考え方やその方法は、ケアを行った後に評価し、最初から決め付けないこと」というホーム独自の理念が掲げられている。特に朝の申し送り時に、日頃の支援を振り返り、理念に照らし合わせ、そぐわない言動については自分たちで考え話し合ったり確認し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方から野菜をいただいたり、田んぼに来られる方たちとお話できている。	地元区へは法人を通じて協力費を納めている。数人の職員が地元地域に居住しており色々な地域の情報を回覧板等で収集している。七年に一度の地域の小宮の御柱祭の時には唄に合わせ練り歩く長持ちがホームに立ち寄った。入居者は隣接のケアホームで行われる小学生や地元住民との交流イベントに参加している。	開設から間もないためすぐには難しいとは思われるが、今後、時間をかけて地域の行事や活動に参加したり、近隣の住民との交流を図り、認知症やグループホームに対するの理解者を増やす取り組みを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	災害時の高齢者の受け入れ等ができるように発電機や薪ストーブの設置を予定している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で取り上げられた意見を職員で共有し、気遣い・言葉遣い・心遣いがもっとも大切だと確認し実践している。	利用者家族、介護相談員、訪問看護ステーション職員、広域連合職員等が参加し行なわれている。ホーム側から理念の説明や入居者の現況説明を行い、参加者から意見や要望を頂くなど双方向の会議内容となっている。参加者からの意見等は職員に報告され実践に活かされている。次の開催予定もその場で決定され、参加者にとってスケジュールが立て易いように配慮されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認定更新の機会に市の担当者にホームの案内をし利用者の暮らしぶりを伝えている。市の介護相談員2名がそれぞれ2～3回訪問して下さり、利用者の話を聴いて下さり、改善の為の助言をいただいている。	ホーム開設から間もなく1年と日が浅いので広域連合や市の担当部署に相談したり、連絡を取り合っている。市から派遣されている介護相談員2名が別々に月2～3回ホームを訪れ、入居者の相談に乗っている。代表者が高齢者福祉関連の講師として出向くこともある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束ゼロへの手引き」を職員全員へ配布しケアを振り返り点検している。	開設当初から比べ入居者も落ち着き、穏やかになっているので必要な方はいない。ベッドからの転落の危険性が予測される入居者にはセンサーで対応する必要があるが家族には了承をいただいている。外出要望の強い方には日頃の暮らしの中に対応策を取り入れ、職員と一緒にゴミ袋を集積場に出しに行くなど本人の満足に繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待とは、身体的虐待だけでなく心理的な虐待や必要なケアの放棄等が含まれる事を職員で理解し注意しあっている。		

グループホーム豊平

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対応が必要と思われる利用者がある場合には、随時、職員に説明、アドバイスをしながら利用者の支援に結びつけている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をとって丁寧に説明している。特に利用料金や起こりうるリスク、重度化や看取りについての対応方針、医療連携体制などについては詳しく説明し、同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には面会時などに利用者さんの様子をはなしながら、職員に言えないでいる事がないかをお聞きしている。ご家族へもなんでもいってもらえるような雰囲気づくりに留意している。	自分の思いを表せる方は約半数ほどいる。入居時に本人及び家族と代表者や管理者との面談でそれまでの生活の様子や意向を聞いている。受診の付き添い時には家族に精神面や健康面の現況を伝え意思疎通を図っている。意見箱も玄関に置かれているが、家族等との面談を重視しており入居者が直接声に出しにくいことも伝わっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングなどで意見を言いやすくするように、コミュニケーションを図り、問いかけたり聞きだしたりするように日頃からこころがけている。	職員会は定例化されていないが意見は言い易い。朝の申し送りに重点が置かれ濃い内容となっており、申し送りノートや入居者の生活記録、話題の「iPad」などで職員間の情報の共有化を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者も頻繁に訪れ利用者と過ごしたり職員の業務や悩みを把握している。 職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後は本人の意向を重視しながら職場内で活かせる労働環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報を収集し、職員の段階に応じてなるべく多くの職員が受講できるよう計画をたてている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	複数事業所連携セミナーに参加し交流を持つことによりサービスの質の向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	運営者とともに面接し相談員さんとも連携しながらご本人、ご家族のお話を聴くように心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族の苦労や心配ごと、生活の様子などをゆっくり聴くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人やご家族の思い、状況等を確認し改善に向けた支援の提案をし必要なサービスにつなげるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	年長者である利用者から生活の知恵などを教えてもらい、「お互い様」の気持ちや「感謝する」関係づくりに留意している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や外出も多いので、その都度ホームでの様子を共有し、本人を共に支えるために一緒に考えていける関係が多くなっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に暮らす馴染みの知人・友人が会いに来てお茶を飲む等継続的な交流ができるように食堂を使用できるように働きかけている。	馴染みの美容室へ家族と行く入居者や近くの床屋へ自分で出向く方もいる。入居前の近所の方やお世話になった方の来訪があり、他の入居者も交えお茶を飲んでいくこともある。携帯電話を持っている方も数名おり、家族との通信が主となるが連絡を取っている。ホームの電話を使ったり、手紙を出すことについても職員が支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性について情報連携し、心身の状態や気分、感情で日々時々変化することもあるので、注意深く見守るようにしている。		

グループホーム豊平

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	そのような時には、新しい住まいでもこれまでの暮らしの継続性が損なわれないように、これまでの生活環境、支援の内容、注意が必要な点について情報提供していきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で声をかけ把握に努めている。言葉や表情からその真意を推し測ったり、それとなく確認するようにしている。	その場だけかもしれないが、自分の希望や意向を表せる方は多い。職員は「できること」に着目し、あくまでも自立支援にこだわっている。開所からまだ日が浅いということもあり、我が家とはやや違い遠慮勝ちなところが見られるが、住み替えによる自然の流れではないかと職員は受け止め入居者の真意を量るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしの把握が重要だと考え、プライバシーに配慮しながらその人がどんなライフスタイルだったのかを理解しようとしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを理解するとともに「できること」に注目しその人全体の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族には日頃のかかわりの中で、思いや意見を聞き、反映させるようにしている。	各入居者には居室担当の職員をつけている。短期目標は3ヶ月、長期目標は6ヶ月で見直しをしている。介護計画については計画作成担当者から担当職員に口頭で説明されており、状態に変化が見られた場合には職員から報告を受け変更をかけている。介護計画の詳細については家族との面談の際に説明し、遠方の家族等には郵送で送っている。	開設後間もなく1年を迎えることから、時間的な余裕ができたなら職員全員での定期的なカンファレンスか担当職員と計画作成担当者との定期的なミーティングを実施し、介護計画の振り返りや進捗状況の確認の機会に当てたらどうであろうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録に本人の言葉、エピソードなどを職員の気づきとともに記入している。連絡ノートとともに勤務開始前に目を通すようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて、看護師と連携し通院などに対応している。		

グループホーム豊平

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市の介護相談員さん2人がそれぞれ2～3回訪問して下さり、利用者さんとの会話の中から気づいた事を職員へ届けて下さる。今後傾聴ボランティアや図書館の利用等を考えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族が希望するかかりつけ医となっている。基本的にはご家族対応をお願いしているが、状況に応じて職員が代行するようにしている。ご家族対応の時にもホームでの様子を文書などでお知らせしている。	入居前からのかかりつけ医を継続している。受診については家族の付き添いを基本としており、隣接ケアホームとの兼任看護師により情報提供票が医師向けに作成され家族に手渡されている。毎週水曜日訪問看護師も訪れており健康面の相談ができるようになっており医師とも連携している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの契約に基づき、日頃の健康管理や医療面での相談・助言・対応を行ってもらっている。看護職員とも連携をとってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院による利用者様の生活のしにくさを極力防ぐために医師や医療相談室と話しをする機会をもち、事業所内での対応可能な段階でなるべく早く退院できるようにお話している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応に係る指針の中で看取りに対する考え方を説明し、主治医・協力医療機関・訪問看護ステーション・看護師等と連携していく事を確認している。	看取りに関する考え方も含む「重度化した場合の対応に係る指針」があり入居時に説明がされている。ホームでの直接の看取りではないが、直前まで暮らした後、本人の申し出により病院に移られ最期を迎えられた方がいた。その際にも本人や家族、主治医、職員間で十分に話し合い、納得の上で取り組んだ。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜勤時の緊急時対応について、マニュアルを整備し周知徹底を図っている。応急手当の勉強会を実施予定している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て年2回の避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方を隣の施設とともに行う予定。	薪ストーブを居間兼食堂に設置中であり、消防署の検査が7月中旬にあることから今年中に計画している防災訓練について日程調整をする予定になっている。基本的には隣接のケアホームとともに年2回実施することになっている。スプリンクラーや自動火災報知器が設置されており、食料品、介護用品も隣接ケアホームに3日分備蓄されている。	今年度の年間計画にもある9月、1月の防災訓練については関係者とも調整し、確実に実施されることを望みたい。

グループホーム豊平

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助が必要な時にも、まずは本人の気持ちを考えて、言葉遣い・気遣い・心遣いを大切にするように努めている。	ホーム開所時の代表者による「倫理についての研修」で徹底されている。二番目の理念の冒頭にも尊厳をもって接することの大切さが謳われている。「個人情報保護」や「守秘義務」についても運営規定等で周知している。職員の呼びかけも自然で本人の気持ちに沿った支援ができています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの状態にあわせてどうしたいのかをその都度聞いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとり一人のペースを大切に、それに合わせた対応をこころがけているが、入浴や行事などはホームの都合で決めていることも少なくない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	それぞれの生活習慣に合わせて本人の気持ちにそった支援をこころがけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は盛り付けから利用者さんと一緒に行っている。食器洗い、食器拭き、台拭き等できることはやっていたらいい。	全介助の方やミキサー食の方など各入居者に合わせた支援方法、調理方法がとられている。入居者の中でできる方には盛り付け、後片付け、食器洗いなどの手伝いをお願いしている。誕生日や行事食などもメニューに加えられており、入居者とボランティアがホーム横の菜園で作ったナス、カボチャ、スイカなども食卓に上ることがある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の献立なので栄養バランスはとれている。ひとり一人の体調と摂取量を把握している。 ミキサー食なども個別に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方は声掛け見守りをし、できない方に関しては毎食後のケアを行い、嚥下障害による肺炎の防止などにも努めている。		

グループホーム豊平

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、尿意のない利用者にも時間をみはからって誘導しトイレで排泄できるように支援している。	約半数の方が自立しており、リハビリパンツを使用している方もほぼ半数いる。各居室にはトイレが設置されておりセンサーで使用状況が確認でき、朝のバイタル測定時に排泄チェック表に記入している。在宅時からの習慣で安心のためにポータブルトイレを持ち込んでいる方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のラジオ体操と牛乳やヨーグルトの摂取など工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来るだけ希望を聞いて入浴してもらっている。 入浴を拒む人に対しても声かけを工夫し一人ひとりに合わせた入浴支援を行っている。	自力で入浴できる入居者は少なく、殆どの方が何らかの介助を必要としている。場合によっては職員2人で介助することもある。週2回以上は入浴しており、必要な方には毎日シャワー等で対応している。個浴と重度化へ向けての特浴が備え付けられているが今のところ特浴を使うことはない。外泊時に家族と温泉に行く入居者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促しているが、一人ひとりの生活習慣や状況に応じて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報のファイルや処方箋のコピーを利用者毎に整理し、職員が内容を把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜づくりや家事などそれぞれが興味のある事ができ、楽しみにつながる支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご家族の協力を得ながらすすめている。 通院時などに買い物に行ったり、近くの散歩などには出かけている。	日常的には近くの小学校や保育園の周りを散歩し田園風景を楽しんでいる。蓼科方面に花見に出掛けたり、蓼科にある同じ運営法人のケアホームでパワーリハビリサービスを利用する入居者もいる。家族との関わりを大切にしており、入居者の受診や買い物などの同行をお願いしている。	

グループホーム豊平

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる方についてはご家族に了解を得ながら現金を所持され自由に使われている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちの方は自由に電話されている。 携帯電話をお持ちでない方にも希望に応じて日常的に電話や手紙を出せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	シンプルでわかりやすいつくりになっており、絵画や花などの装飾で居心地の良い空間を作っている。 季節感を採り入れた飾りなど工夫している。	入居者の短冊のついた季節の七夕飾りがオープンキッチンに面した居間兼食堂に飾られていた。一直線に広い廊下が西側を貫いており、受付のカウンターにはアロマオイルの蒸気が立ち上がり香りを広げていた。共用のトイレも広く立位タイプと洋式トイレが設置されている。薪ストーブを設置中で床暖房やパネルヒーターもあり寒さ対策は万全で、暑さ対策としてエアコンが3台設置されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下やホールにソファや椅子を置き、一人で過ごしたり、仲の良い利用者同士がくつろげるスペースがある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた馴染みの物を持ち込んでもらえるようにご家族に働きかけている。 物品の量は多くはないが、利用者さんの意向は聞くようにしている。	各居室のドアは全面カラー塗装されており、入居者もたやすく識別することができる。居室内にはクローゼット、洗面台やトイレがある。トイレ内も車椅子が使用できる十分なスペースが確保されている。ベッドやテレビ、読み慣れた雑誌等が置かれていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	シンプルでわかりやすいつくりになっており、居室にはトイレ・洗面所がついている。 扉の色分けなど「わかること」を活かせる工夫をしている。		